

エッセイ Essay



世界とつながる面白さ

青年海外協力隊OV
鈴木 千咲

「世界の現状を子どもたちに知ってほしい、日本と世界の子どもたちを繋ぎたい。」私が国際協力に興味を持ったのは中学生の頃でした。学生時代に海外ボランティアに参加し、世界と繋がる面白さ、感動を知った私は、今度は自分がそのきっかけになりたいと思いました。その思いを形にするために最初に選んだ道は中学校の教員でした。英語の教師として、日々の仕事を何とかこなして3年目、初めての卒業生を送り出そうとしていた頃、一人の学生が私に言いました。「私は将来、国際協力に関わって、世界で困っている人のために働きたいです。」私は自分の思いが伝わった嬉しさと同時に、自分自身が行動を起こすことを忘れかけていたことにはっとしました。その後、現職教員特別参加制度を利用し、青年海外協力隊に応募、トンガの高校で日本語を教えることが決まりました。

トンガは、南太平洋に位置する人口約十万人の小さな島国です。日本ではあまり知られていませんが、実はトンガの王室と日本の皇室の交流が古くから続く大変親日な国です。その影響からそろばんが小学校の必修科目となっています。敬虔なキリスト教国家であり、伝統を大切にしている国でもあります。日曜日は伝統衣装を着て教会に行き、その後で伝統料理を家族で囲んでのんびり過ごします。決して物質的には豊かとは言えませんが、伝統文化を守りながら、家族、地域みんなで支え合って暮らしています。

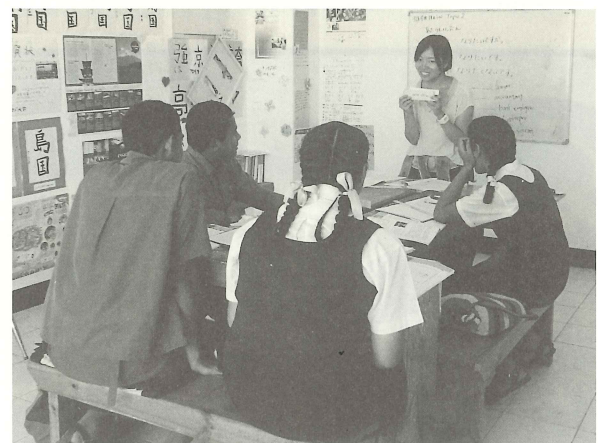
トンガでは、義務教育が整い、ほとんどの子どもが教育の機会を与えられていますが、教師、設備や教材不足と、教育の質は高いとは言えません。私は授業、現地人教師のサポート、文化イベントの開催、シラバス・教科書改訂など、日本語教育の質向上に向けた活動に関わりました。

年に一度、全国の学生が集まって日本語スピーチコンテストが開催されます。最初は恥ずかしい、自信がないと言っていた生徒がいきいきと発表する姿を見ることは、何にも代えがたい喜びでした。遠い小さな南の島の学生たちが、一生懸命日本語で自分の考えを発表

する姿には心を動かされます。優勝者には日本での研修の機会が与えられます。言語や文化を学ぶことを通して、広い視野を持った学生が育ち、トンガの将来を支えていってほしいと願うばかりです。

協力隊になった私のもう一つの夢は、現地と日本の学生を繋ぐことでした。中学校の協力を得て、インターネットを利用した合同授業を行うことができました。お互いの夢や文化紹介を行いました。学んできた日本語、英語を使って意思疎通が図れたときの嬉しそうな笑顔が忘れられません。

帰国後は、元の中学校に戻り教員を続けています。協力隊に私もなりたい、トンガについてもっと知りたい、英語を頑張りたいという生徒の声に、思い切って協力隊に参加してよかったと感じています。先日、JICA中部、豊橋市国際交流協会の協力を得て、トンガと豊橋の小中高校生をネットで繋ぎ、授業する機会を頂きました。子供たちのキラキラ輝く表情は大きな私のエネルギーになりました。自分と違う価値観や文化に出会い、お互いを認め合うこと、それは世界が平和で笑顔の溢れる場所になる第一歩だと思います。これからも一人でも多くの子どもたちが、新しい世界を知り、広い視野の中から将来を考えることのできるきっかけを作る活動を行っていきたいです。



トンガでの授業風景